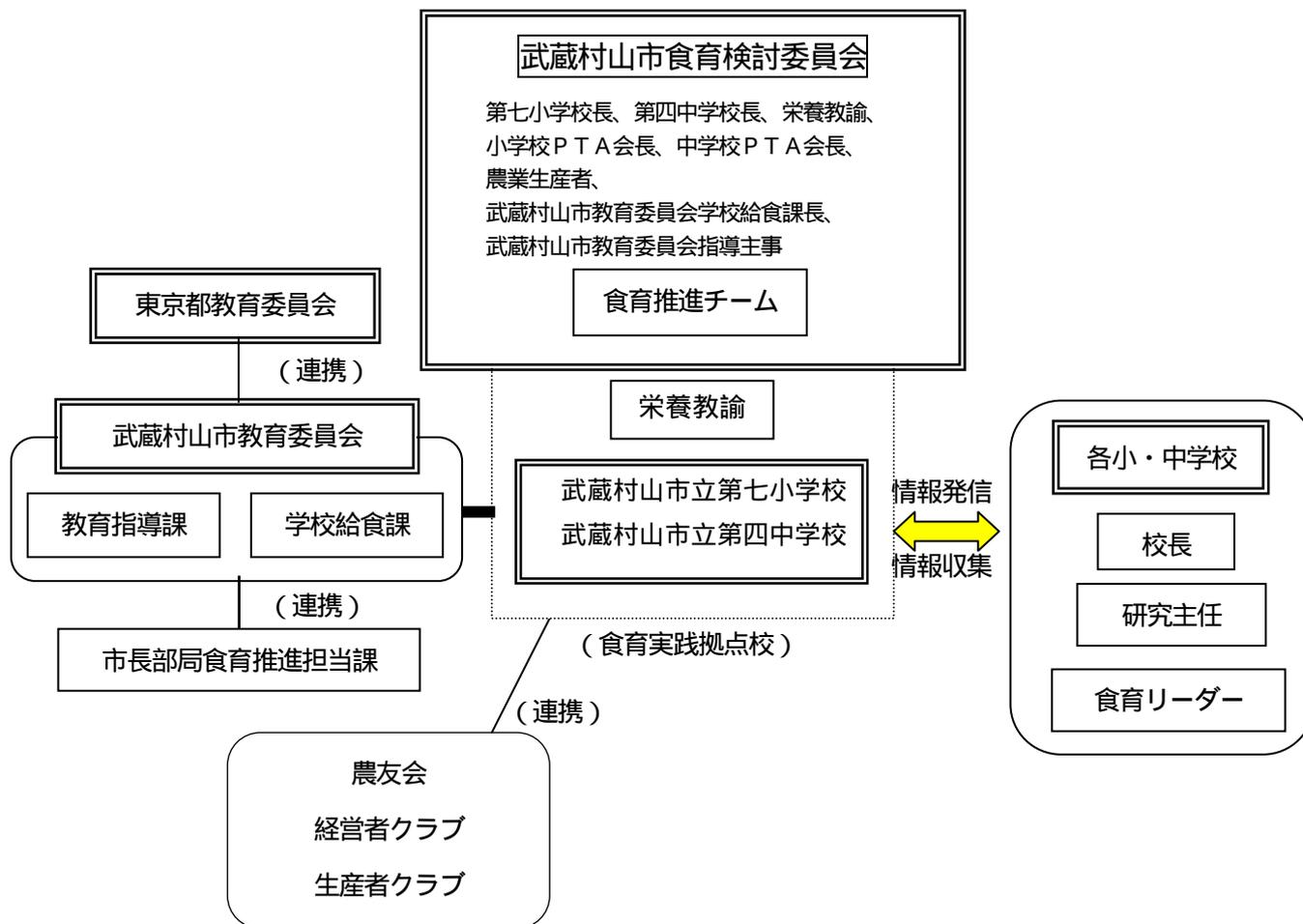


栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	東京都
推進地域名	武蔵村山市

1. 事業推進の体制



2. 具体的取組等について

テーマ1 第七小学校と第四中学校における小中連携の食育の推進

(1) 小・中連携した食育の研究の推進

5月24日には栄養教諭を中心とした小・中合同の授業研究会を、10月5日には第七小学校第3学年と第四中学校第2学年による、食育に係る交流授業を行い、小・中学校の教員による共同研究だけではなく、実際に児童・生徒の交流を通して、小・中学生それぞれの学習のねらいを達成することを目指して研究を進めた。6月、9月を合わせ、合計4回の小・中合同の研究会を実施した。

12月13日には、研究主題「元気で健やかな児童・生徒の育成 - 食育・体育を通して - 」に基づく第七小学校・第四中学校共同研究発表会を開催した。



(2) 市立学校における食育諸事業の計画・推進

栄養教諭を活用した食育研修会を通して、児童・生徒の実態に応じた食に関する指導全体計画及び食に関する年間指導計画を、本市の全小・中学校において作成した。また、本市全小・中学校の食育リーダーが参加した、栄養教諭を活用した食育研修会では、各種教材等を用いた具体的な食育指導について研鑽を深め、各学校の実践に生かす実践的な研修となった。



テーマ2 栄養教諭による推進地域における食育推進

(1) 市立学校における食育に係る諸事業の計画・推進

ア 市立学校における食育に係る諸事業の計画・推進

今年度の教育課程届出の際に提出させた各校の食に関する全体指導計画、食に関する年間指導計画への指導・助言を行うとともに、具体的に教材を活用した食育指導についての研修を行った。

イ 12月に第七小学校、第四中学校の研究発表会を行った。市内全小・中学校悉皆研修とし、研究の成果を各小・中学校に広めることができた。

(2) 食育講演会及び生産者との交流会の実施

市内小・中学校教職員・保護者、地域の方々対象に12月に実施した。服部幸應先生を講師として、「食育のすすめ」というテーマで講演をいただいた。

(3) 食育料理教室の実施

子供たちへの指導と並行して家庭での食育の推進を啓発するために、食育料理教室を9月に第七小学校及び第四中学校で1回ずつ、計2回実施した。

〔食育料理教室〕

講師 学校法人食料学院教授 沢辺 利男

市立第四中学校栄養教諭 塩塚 宏治

対象 小・中学校保護者

内容 (ア) 料理 講師 沢辺 利男

「肉かぼちゃ、土鍋でご飯、チキンカレー、野菜たっぷりスープ、パンナコッタ」

(イ) 講義 講師 塩塚 宏治

「スポーツと栄養」



(4) 学校給食を活用した食に関する指導

食欲が減退する傾向がみられる6月に全小・中学校の取組として「残菜0ウィーク（小学校ではモリモリウィーク）」を設定し、食べ残し量が少なかった小・中学校について、全児童・生徒に配布している献立表に掲載した。1月の給食習慣においても「残菜0ウィーク（小学校ではモリモリウィーク）」を実施した。



(5) 市の食育推進事業への助言

市長部局の健康推進課と連携し、「武蔵村山市食育推進計画」に基づき、市の食育推進事業について指導・助言を行い、市内の食育推進の充実を図った。

テーマ3

地場食材に関する児童・生徒、保護者・地域への啓発活動の推進

(1) 水稲栽培による米作り体験

市内小学校第5学年全児童を対象に実施した。その際、農友会、栄養教諭等の指導・支援を受け、充実した体験学習を行うことができた。

(2) 食育に関する教育の展開

小学校社会科第3学年「わたしたちの生活とものを作る仕事」における小松菜栽培、小学校社会科第5学年「わたしたちのくらしと農業生産」で水稲栽培と食育を推進した。

(3) 地元生産者とTT授業及び学校農園活動の支援

食育サポーター（生産者）を活用し、野菜、果物などの知識と食文化を直接子供たちに伝える取組を行った。

(4) 農業体験・職場体験

食育サポーター（生産者）の協力を得て、中学校第1学年及び第2学年の生徒が種まきから収穫までの生産体験を行った。



テーマ1～3に共通する具体的計画

正しい生活リズムの確立と食とのかかわりを大切にした健康教育の充実

食育授業の充実

家庭との連携

家庭への啓発

校内環境の整備

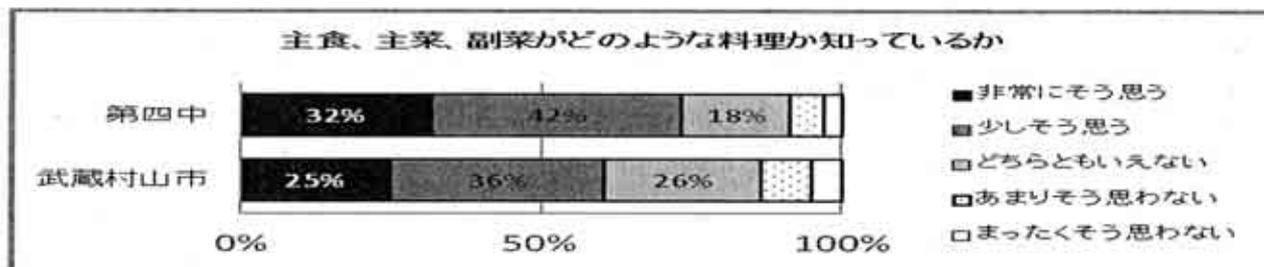
給食指導の工夫

9年間を見通した小中連携の食育実践

地域の生産農家との連携と体験的学習の充実

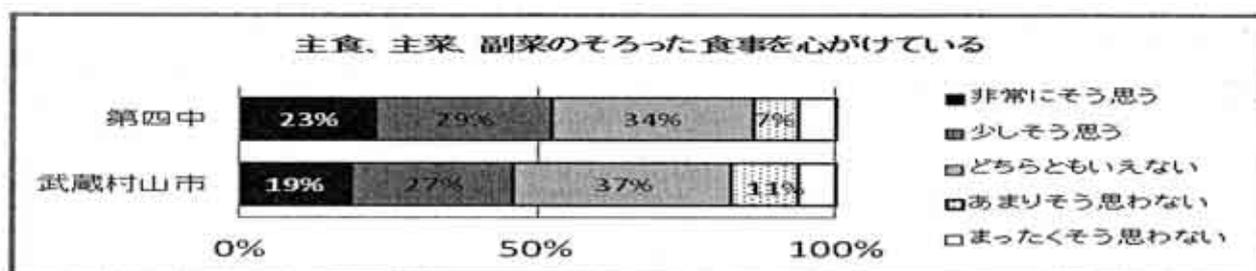
数字で変化のあった事項について

(1) 主食、主菜、副菜に関する知識（食知識）



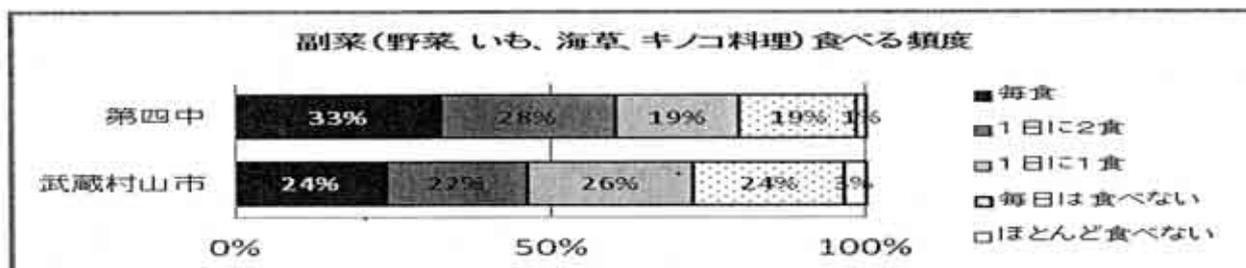
主食、主菜、副菜について知っているかどうかは、第四中学校の生徒は武蔵村山市の他の中学校の生徒と比較して、「非常にそう思う」が7ポイント、「少しそう思う」が6ポイント多く、主食、主菜、副菜の知識が定着していることが分かる。

(2) バランスよい食事への態度（食態度）



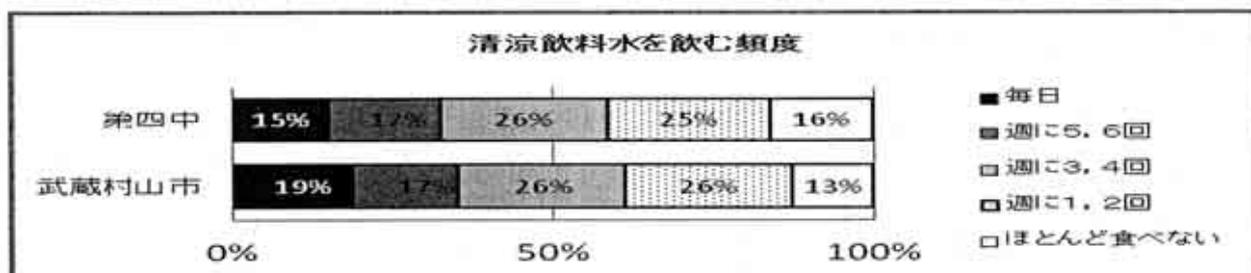
主食、主菜、副菜のそろった食事を心がけるかについて、第四中学校の生徒は「非常にそう思う」と「少しそう思う」と答えた生徒を合わせると、武蔵村山市の他の中学校の生徒より6ポイント多く、良い傾向が見られた。

(3) 副菜を食べる頻度（食行動）



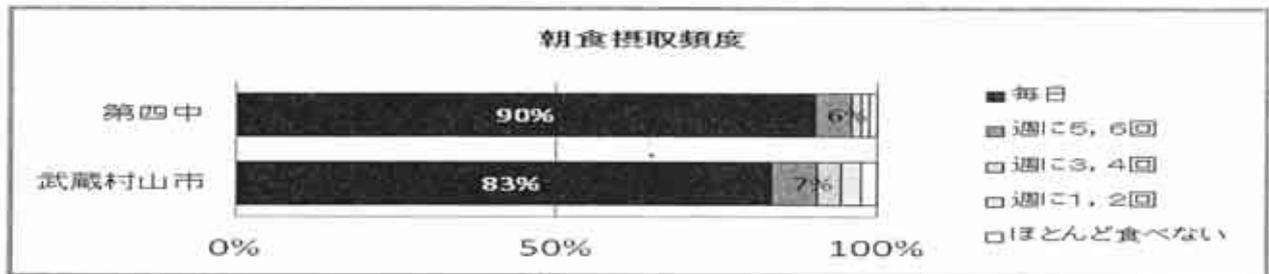
副菜を食べる頻度では、第四中学校の生徒は、望ましいと考えられる毎食が9ポイント、1日に2食が6ポイント多く、武蔵村山市の他の中学校よりも望ましい結果であった。

(4) 清涼飲料水を飲む頻度（食行動）



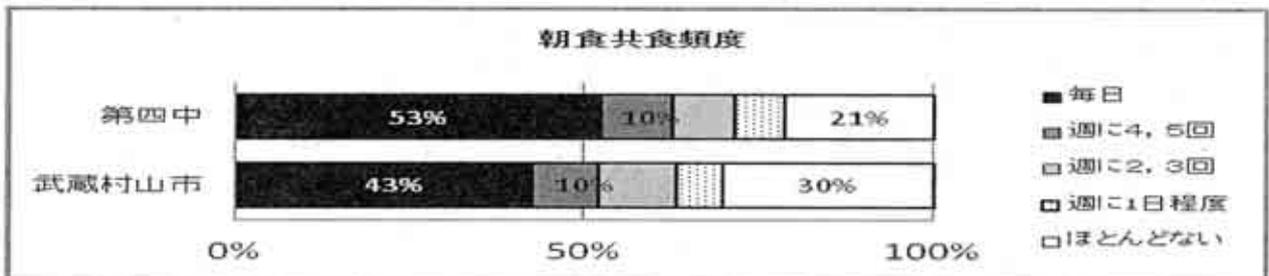
清涼飲料水を飲む頻度は、第四中学校生徒は武蔵村山市の他の中学校と比較して、毎日と答えた生徒が4ポイント少なく、若干少ない傾向が見られた。

(5) 朝食摂取頻度(食行動)



朝食摂取頻度は、第四中学校は毎日と答えた生徒が全体の90%であった。これは、武蔵村山市の他の中学校や全国データと比較しても、毎日食べると答えた生徒の割合が高かった。

(6) 朝食共食頻度(食行動)



朝食共食頻度では、第四中学校は武蔵村山市の他の中学校と比較して、毎日と答えた生徒の割合が10ポイント高く、共食頻度が高い生徒が多く見られた。逆に、「ほとんどない」と答えた生徒は9ポイント少なかった。

事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

食育授業充実のため、栄養教諭及び栄養士等が積極的に授業へ関わるよう連携を強化したことで、児童・生徒の食への興味・関心が高まり、食への正しい関わりの姿勢が定着してきた。

地元の生産農家に協力を依頼し、野菜等の生産物を栽培、収穫する体験学習を通して、栽培することの楽しさや食べ物の大切さを学び、食物を大切にしようとする児童・生徒の態度の形成が図られた。

様々な実践を通して、給食の食材を大切に、給食をしっかりと食べようとする児童・生徒の態度が一層高まってきた。

食を中心とした日常の基本的な生活習慣にかかわる啓発活動を充実させてきたことで、食に対する保護者の関心が高まり、児童・生徒の生活リズムの改善が大きく図られた。

今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

食育における小中連携の視点から、義務教育9年間を見通した食育の在り方を検討し、各地域の実態に合った9年間の指導計画を作成し、実践化していくこと。

栽培活動等を充実させるため、地元の生産農家との協力を一層深め、耕作地の確保、土づくり・堆肥づくり、農機具の整備等、環境の充実を図ること。

家庭及び地域への啓発を一層充実すること。